

I 事業の概要と平成29年度の活動

ここでは茨城大学COC事業の全体像を説明したうえで、平成29年度の活動の特徴について取り上げる。

茨城大学では「茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業」を進めている。COC事業の4年目、地域志向教育の3年目にあたり、個々の課題はあるものの、COCプラス事業の枠組みのなかで、市民・自治体・企業等の地域、学生、教職員、学内の社会連携センター、図書館、全学教育機構等との協力のもとに事業を進めてきた。

具体的には、地域志向教育プログラムの拡充とCOCプラス事業協力校との連携、学生の地域活動の拡大、学生コーディネーター制度の実施など、COC事業の拡充と発展がみられた。



I 事業の概要と平成 29 年度の活動

1 茨城大学 COC 事業の全体像

COC 事業とは、「大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的としています」(文部科学省ホームページ)。

茨城大学では「茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業」を進めている。本事業の究極の目標は、地域を拠点に、県外と世界に誇れる、開かれた茨城の創造にある。そのため、茨城大学は、「地域に学び、地域に還元し、地域と共に成長する拠点となること」を目指し以下の内容に取り組んでいる。

事業内容は大きく分けて、地域課題の解決と人材育成の2つある。

前者では、自治体をはじめ地域課題解決に取り組んでいる企業・団体等と連携して、人口減少地域の地域活性化、中小企業競争力強化支援、農業振興、地域の教育力向上支援の課題に取り組む。その取組みの中で、学生と教職員の活動を連動させ、地域の課題解決と活性化へ役立つ研究と実践を行う。また、地域人材のブラッシュアップによる地域の教育力向上を支援する。後者では、地域志向教育プログラムを新設し、地域での教育を通して、地域に頼られる学生を育成する。

なお、地域課題の解決と人材育成は、それぞれ別々に実施するわけではなく、地域課題を人材育成にも活用する。特に、PBL（課題をもとにその解決を通して学習する講義）においては、出来るだけ地域課題を題材にし、学生が現実の社会に触れ、実践的で主体的な学びとなるよう努める。

PBLなどの教育は、学生の成長機会としてばかりでなく、地域住民や経営者等が学生から刺激を受けて、地域での役割を再認識する機会ともなることを期待する。

こうした教育の波及効果に、研究・社会貢献の効果が相乗することで、地域住民が当事者意識を持って、地域の未来を考える社会を実現したいと考える。

【連携する自治体・企業等】

茨城県、水戸市、日立市、阿見町、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市、東海村、大洗町、茨城町、(株)常陽銀行、(株)筑波銀行、(株)ひたちなかテクノセンター、(公財)日立地区産業支援センター、茨城産業会議

連携先を起点に広く地域の方々と交流しながら事業を進めます。

茨城と向き合い、地域の未来づくりに参画できる人材の育成事業 ～グローバルな視野と対応を通じて～

茨城が変わる

【究極の目的】

地域を拠点に、県外と世界に誇れる、開かれた茨城の創造

【地球課題】
グローバル対応と
多文化共生を念頭に

- 1.人口減少地域の地域振興
- 2.中小企業の競争力強化支援
- 3.農業振興
- 4.地域の教育力向上支援

自治体等と連携してなにをどうするのか

- ① 地域に頼られる学生・留学生の育成
- ② 地域の課題解決と活性化
- ③ 地域人材のブラッシュアップ

【地域志向大学宣言】

地域に学び、地域に還元し、大学と地域が共に成長する拠点

【課題解決への強み】

県北・県央・県南に広がる3つのキャンパスに5つの学部を有する総合大学

多様な地域特性をもつ茨城では、一点突破でなく、各領域課題に同時に取り組みねばならない

地域志向教育プログラムの設立

主に地域での教育を通じた学生の育成（上記①該当）

地域を多角的に捉えながら地域課題と向き合い、1年次から大学卒業まで一貫して受ける、学部横断的アクティブラーニング

すべての学生が受講し、自治体や企業等と連携しながら行う「茨城学」

多様なPBL(課題をもとにその解決を通して学習する課題)

真顔に学ぶ学生が、
大学全体と地域を
変えていく

学生の成長機会、地域住民や事業者等の
地域での役割の再認識から

地域に役立つ研究と実践

学生と教職員の活動が運動した
地域課題への取組み（同②）

シンポジウムや地域円卓会議等から課題を共有

成果目標を明確に、学内外横断で取り組む、
地域課題解決型特定研究プロジェクトの展開

研究の蓄積・発信、社会事業化等から

社会貢献

主に教職員の活動による
地域人材ブラッシュアップ（同③）

理科教育、芸術者養成、食育・生涯教育
などの地域の教育力向上支援に重点

地域PBLや研究活動と
連動して、社会貢献の
枠組みを拡大したものと展開

協働・共創の関係への進化から

地域住民が当事者意識を持って、グローバルに地域の未来を考える社会の実現

2 平成 29 年度の活動

平成 29 年度は COC 事業の 4 年目、地域志向教育の 3 年目にあたり、個々の課題はあるものの、COC プラス事業の枠組みのなかで、市民・自治体・企業等の地域、学生、教職員、学内の社会連携センター、図書館、全学教育機構等との協力のもとに事業を進めてきた。地域志向教育プログラムの拡充と COC プラス事業協力校との連携、学生の地域活動の拡大、学生コーディネーター制度の実施など、COC 事業の拡充と発展がみられた。

29 年度の主な取組み項目は下記の通りで、以下では 29 年度の新たな展開について記述する。

【29 年度の主な事業項目】

◎地域課題等の共有

シンポジウム、はばたく茨大生、自治体関係者を含めた教職員の研修会（FD・SD）、自治体との実務者間意見交換会、ホームページ、フェイスブックページ

◎教育

学士課程での地域志向教育プログラム、大学院での地域志向教育、地域志向教育支援プロジェクト

◎研究

地域課題解決型特定研究プロジェクト

◎社会貢献

地域人材育成プロジェクト、COC 統括機構企画型地域人材育成、土曜アカデミー、新聞マルシエ

1) COC から COC プラスへの発展形、「茨城学」の他大学との共有

29 年度から「茨城学」を、COC プラスの協力校のうち常磐大学・茨城キリスト教大学・県立医療大学で、バーチャル・キャンパス・システム（VCS）でのライブやDVDでの録画を使って共有することになり準備を進め、後期から開始した。VCS では講義・振り返り用紙の記入・グループディスカッションの後に行う講師とのディスカッションで、各校から出た意見を共有している。1 大学の枠組みを越えた先進的な取組といえるだろう。

2) 自治体関係者と学生も含めた「茨城学」のFD・SDの実施

過去の授業資料と課題、アンケート結果、今年度の授業運営などを把握し、授業の目的を共有した。また学生を交えて授業改善（質問箱の設置、専門用語の解説など）に向けて検討できた。これにより、各担当者の授業運営に対する理解が増し、事前の打ち合わせがスムーズになった。

3) シンポジウムを契機に、学生・企業連携プロジェクトが美術館を含めた新プロジェクトに展開

第4回地（知）の拠点シンポジウムの第2部におけるテーマ別の意見交換会で、茨城県天心記念五浦美術館から「日本一つながる学食プロジェクト（株式会社坂東太郎と連携し茨苑食堂のリニューアルなどを手掛ける）」に連携の要請があり、学生（大学）・企業・美術館が共同で、美術館の開館20周年記念企画「龍を描く～天地の気」展のオリジナル商品（フィナンシェ「りゅうなんしえ」）を開発した。大学・企業・美術館が連携し、学生が主体となりオリジナル商品を開発・販売するのは極めて珍しい。

